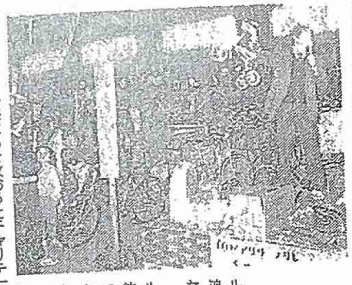
秋田さきがけ
1991年(平成3年)3月24日 日曜日

白ロシアに支援を

秋田市 きょうまでバザール

白血病、血友病に苦しむ子供たちを救おうとチャリティーオークション・バザール



白ロシア共和国の子供たちを救おうと開かれたチャリティーオークション・バザール

ソ連・白ロシア共和国の子供たちが二十三日、秋田市寺内神屋敷の貧倉庫で開かれた。

ウクライナ共和国・チェルノブイリ原発事故による放射能汚れで、隣接する白ロシア共和国では原爆症白血病に苦しむ子供たちが増えている。このため医薬品や医療器材を買い、治療に役立ててもらおうと日本ユニセフ協会秋田支の会（佐々木正光代表）が中心になってこの催しを企画した。

オークションでは、市民や企業から寄せられた自転車、コート、日用雑貨など二百点が並べられ、次々と競り落とされた。きょう二十四日も午前九時から、同会場（貧倉庫・ピッグスペース日の出）で行われる。

売り上げとバザールの収益は、医療器材購入などに役立てられる。

朝日新聞
1992年(平成4年)6月10日 水曜日

チェルノブイリ原発事故で ベラルーシから医師

県が招く 被ばく医療技術研修

原発事故の被ばく者治療を学ぶため秋田空港に着いたユーリー・シェーフェルさん＝秋田空港で

チェルノブイリ原発事故の被ばく者への医療技術を学ぶため、ベラルーシ共和国の医師ユーリー・シェーフェルさんらが九日、秋田空港に到着した。同共和国への医療支援として、県が今年初めて招いた。ユーリーさんは今後一年間、秋田大医学部で、被ばくによる白血病などの血液疾患について学ぶ。「広島と長崎の原爆による被ばく者治療など、日本の医療を学べるだけ学んで、帰国後の治療に役立てたい」と、抱負を語っていた。

同共和国では、原発事故により多数の被ばく者を出しながら、医療品不足や医療技術の遅れなどが大きな課題となっている。医療技術の支援として、県は今年度、同共和国の二人の医師を招待する。同共和国のゴメル州立病院で血液科医師を務めるユーリーさんはその一人。残りの一人は八月以降に来県する。

ユーリーさんは「チェルノブイリ事故の後遺症とみられる白血病の患者は、毎年、確実に増えている。入院患者への医療体制もきちんとしながら、通院患者への医薬品が不足している」と、同国の窮状を訴えた。

ユーリーさんによると、同国内の被ばく者の実態は完全にはつかみ切れておらず、初期症状を訴える多数の人々の病状の進行をくい止めるのが課題という。このため、原発事故で被ばくした人々の最新の診断データを持参してきており、秋田大学医学部の教授らに助言を仰ぎたい、と話す。

ユーリーさんは今後、秋田大医学部に在籍し、三浦亮教授らの下で、血液疾患、とくに造血作用を促す骨髄移植などについて学ぶ。また、同学部付属病院で、臨床の見学や、治療を除く実習などもできる予定だ。

No. 83